

令和6年度 第1回岡崎市ユニバーサル農業推進懇談会 会議録

1 会議の日時及び場所

令和6年6月24日（月）14時～16時30分

岡崎市役所西庁舎7階704号室

2 出席者（敬称略）

（構成員）

加藤 智子：関係団体（あいち三河農業協同組合女性部長）

小林 和寿：関係団体（あいち三河農業協同組合営農企画課長）

柴田 若江：農業実践者（岡崎市農業委員）

杉山 琢士：市民公募

辻 雄樹：関係団体（愛知県立みあい特別支援学校教諭）

（テーマ関係者）

石塚 玲子：関係団体（特定非営利活動法人アルクス理事長）

斉藤 博之：関係団体（特定非営利活動法人おかざき農遊会）

野月 裕弓：関係団体（岡崎市障がい者基幹相談支援センター）

（オブザーバー）

曾田 之博：関係団体（愛知県立みあい特別支援学校高等部主事）

中川 逸夫：関係団体（あいち三河農業協同組合関係）

農務課：小林 哲夫、勝瀬 仁巳、木村 理恵、杉浦 一子

中山間政策課：小早川 侑

障がい福祉課：内田 直幸

ふくし相談課：柴田 千奈美

岡崎市社会福祉協議会：草次 君子、前田 有貴子

3 会議次第

- (1) 岡崎市ユニバーサル事業について
- (2) みあい特別支援学校農福連携の活動について
- (3) 特定非営利活動法人農遊会の活動について
- (4) 検討事項について

4 会議要旨

(1) 岡崎市ユニバーサル事業について

市民農園開園状況、農福連携実績等について、事務局から説明。

○中川氏

農福連携で、農業者と福祉事業所とマッチングとありますが、障がい者の方は個人ですか？

○事務局

個人の方とのマッチングも今後検討したいとは思いますが、現在個人ではなく、福祉事業所とのマッチングを進めています。農業者が、福祉事業所の職員に農作業の内容を説明し、職員が福祉事業所の利用者の方に説明と作業の確認するため、農業者は職員に任せることができます。障がい者個人の方ですと、農業者の方が直接指導及び責任等必要となり、まだ現状では難しいと思われます。

○加藤氏

農福連携が始まったところなので、少しずつ進んでいけば良いのでは。利用者の方たちも農作業の経験をだんだんとしてきて、熟知していくと思います。自信もついてくるし、指示が無くても行動ができるようにもなってくると思います。これを継続して、進んでいくことが大事だと思います。

○事務局

中川さんのお話は、個人の方から相談があった場合に、J Aが障がい者の雇用をするということですか？

○中川

雇用ではないですが、農家との間にJ Aが中間支援組織でやりましょうというのはいかがでしょうか。

○事務局

ぜひお願いします。

また、お試しノウフクで農業者が、利用者で良い働きの方を直接雇用していくことができればとは思いますがどうでしょうか。

○石塚氏

B型就労支援施設は、就労へのステップアップの場合なので、農業をやりたいという方は出てきており、それも良いと思います。ただ精神の方は、波があるので、自分のところの場合、その方の波が下がった時は、別の方をお連れして、農作業に出かけていることが実際あるので、個人雇用となると少し難しいかなとも思います。

○柴田氏

波が出てしまった時等は、自分たちも心配です。職員の方がついてきてくれるので、今は安心して任せられています。

- (2) みあい特別支援学校農福連携の活動について、みあい特別支援学校から説明。

○加藤氏

JA からさつまいもの苗をいただいて、土地の心配もあったけれど、農大から良い場所を借りられ、良かった。ただ、とても暑い日が続くので、子どもたちの体調に気を付けてほしい。

○柴田氏

栽培したローゼルをアルクスさんにジャムを作ってもらったとのことですが、ジャムはどれくらいできましたか？

○石塚氏

一瓶でした。ローゼルのジャムは、時間が必要で、また焦げてしまうので根気も必要でした。農産物を買って、ジャム作るということになるのと利益は難しいけれど、またやっていきたいです。もしジャムが余っても、お菓子にしたりもできます。

○柴田氏

一瓶は少なかったけれど、ローゼルは希少価値があり、美容効果もあると言われていたので、良いと思う。栽培管理が簡単であるし、空いている土地や耕作放棄地に撒いて、収穫は施設の方にしてもらって、ジャムにしてみらうのも良いと思う。

- (3) 特定非営利活動法人農遊会の活動について 特定非営利活動法人農遊会から説明。

○柴田氏

初めて農遊会さんの活動を聞いて、このような素晴らしい理念を持たれていることを知り感動しました。自分も中山間政策課から活性化リーダーを依頼され、立ち上げましたが、本当手探りで必死です。荒れている田んぼを開墾して、オーガニックの田んぼを目指しており、除草剤を撒いていないのですが、田の草を取るのも苦労してで、オーガニックは本当難しいです。

○斉藤氏

難しいですね、自分たちも勉強中です。

○柴田氏

農遊会さんの活動は、市の支援はあるのですか？

○事務局

特別な支援はしていません。農遊会さんが自主的であるからこそ、上手く進んでいます。市で押しつけては、上手くいかないと思われます。

○柴田氏

中山間地域に住んでいて、中山間地域が寂れていくことに危機感があり、良い機会をもらったので、自分たちも中山間地の良いところを活かして、地域で話し合っていきたいです。

○加藤氏

農遊会さんは、どのような方が会員になられているのですか？

○斉藤氏

農業が生きがいという方たちが農遊会に入っています。

現在は、農業塾卒業生、現会員からの紹介者が入ってもらっていますが、もっと会員を増やしたく、新聞などでも掲載して、募集をしていきたいです。

(4) 検討事項について

ア 農業者から規格外野菜等寄附があった場合の福祉事業所へのマッチングについて事務局から説明

○事務局

個別ではなく、いちご部会等、組織的に寄附を募った方が良いとも思われますがいかがでしょうか。

○小林氏

野菜等を取りに来てくれるなら、良いかもしれない。

○加藤氏

いちごも処分してしまう時期があるので、その前に来てもらうようにしてもらおうと思います。他、柿やなすも良いと思う。

○柴田氏

J Aが声掛けしてくれると良い。

○石塚氏

去年は、ある農家さんから規格外のなすをいただいてクッキーにしたり、柿もスムージーにしたりもできましたので、是非お願いしたいです。

○中川氏

規格外野菜の提供について、ルール化していくことが必要だと思う。

○小林氏

来年のいちごについて、まず検討します。

イ 農業者から規格外野菜等寄附があった場合の子ども食堂へのマッチングについて、事務局から説明

○事務局

農業者の方へ規格外等の野菜提供についての案内を、社会福祉協議会から相談がありました。現在の産直施設は、決まった子ども食堂1か所へ提供を行っている状況です。

○柴田氏

産直施設が子ども食堂各1か所のみというところが問題だと思う。

産直施設での寄附の場所を、一生懸命立ち上げたのに、各産直施設でそれぞれ1つの子ども食堂にしか配布されていないのは、残念だと思います。い

くつかの子ども食堂へ分けれるようにしてほしい。社会福祉協議会が産直施設へ出向いたりして、システムについて相談してみれば良いのでは？

○加藤氏

農家としては、野菜を提供しているのに、上手く回っていないようなので、産直施設か J A さんかどちらでこの件を検討してもらえるかわからないけれども、検討してほしい。

○ふくし相談課

野菜を提供してもらっている子ども食堂と提供してもらっていない子ども食堂と差があると思われるので、社会福祉協議会と一緒に確認が必要かと思います。開催日に近い子ども食堂が産直施設へ取りに行くシステムを検討するのも良いと思います。協力いただく範囲でシステムを考えましょう。

○岡崎市社会福祉協議会

今あるシステムも活かす形で一度検討していきたいと思います。

○事務局

公平性が保たれていないと思われるので、子ども食堂を地域で分けて産直施設の割当をするのも良いかもしれない。また、J A の各支店等にコンテナを置いて集める等、拠点を増やすことも良いのではと思いますがいかがでしょうか。

○小林氏

各施設に聞いてみる必要があります。

○柴田氏

コンテナだけ出しておいてもらいたく、各施設の人は声かけや管理しなくても良いとは思いますが。

○加藤氏

地元の農家さんや高齢者の方も、支店なら出しやすい。野菜も土がついていたりしても良く、綺麗なものでなくても良いとも農家さんに知ってほしい。J A さんから、もっと周知もしてほしい。

○小林氏

まずは、営農センターから検討してみます。

○事務局

産直で農家さんは、売れ残った野菜を産直施設へお金を払って引き取ってもらおうと聞きますが、それも活用できないでしょうか？

○柴田氏

2, 3 日経つと、野菜が腐ったりしてしまうので、子ども食堂の開催のタイミングを考えると難しいかもしれない。子ども食堂開催数日前とかにもらっておいて、子ども食堂の方で冷蔵庫に入れておいてもらおうと良いかもしれない。

○岡崎市社会福祉協議会

子ども食堂の開催頻度は、多くて週に1回で、月に1回のところもあります。

現在、産直施設からの提供について、一部に偏っていますので、公平性が保たれるように検討していきたいと思います。

ウ 農作業委託マッチング数増加方法について

○事務局

今年度まだお試しノウフクの申請が無く、新規の農業者からの農福連携のマッチング依頼が無い状況であるため、何かご意見をいただきたい。

○中川氏

リーフレットを作って、J Aであれば青年部会等で、説明していった方が良い。

○加藤氏

J AサイドがもっとPRし、進めていった方が良いかと思います。

○小林氏

部会用のお試しノウフクのチラシも作成したので、進めていきたい。

○事務局

新規の農家のみがお試しノウフクの対象ではあるが、2回目等も補助対象にした方が良いでしょうか？

○柴田氏

自分のところでは、昨年度福祉事業所に来てもらいましたが、今年も福祉事業所の方をお願いしたいと思っています。

農福連携に偏見をもっている人もまだいると思います。ただ安く作業を頼めるから良いというのではなく、福祉の気持ちが無いと続かない。利用者の方々も純粋なので、農家の気持ちが伝わると思う。

○石塚氏

農福連携技術支援者の講習を自分と担当者が以前受けました。農福連携についての勉強だけでなく、農家さんと直接話もできて大変良い講習会でした。この農福連携技術支援者講習会の受講料を補助等していただいたりして、多くの方に受けてもらおうと良いと思います。

○事務局

昨年度の農福連携技術支援者の講習料は、愛知県の募集では、無料だったと思われますが、確認し、有料の場合は、補助も検討したいです。また、多くの方に参加いただけるように募っていいきたいです。

また、お試しノウフクの新規件数を増やすことや2回目を補助することというよりも、技術支援者講習会受講の推進をした方が良いということでしょうか。

○加藤氏

農業者で福祉に興味がある人を増やすことや、また興味があるようにすることが必要だと思います。

○中川氏

福祉を理解するというのが一番必要だと思う。J Aも、もっと技術支援者講習会等参加しても良いかもしれない。

○柴田氏

自分も福祉事業所の利用で、来たことある方がもう一度来てくれると嬉しい。利用者の方も頼りにされていると嬉しいと思う。つながっていくことが大事だと思います。

○事務局

農福連携技術支援者が増えるように検討していきたいと思います。

終了を宣言。